

## 第2回 新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会 議事要旨

日時：平成30年7月11日（水曜） 15:00～17:00

場所：市役所4号館1階 本部員会議室

### 議事内容

#### 新・神戸文化ホール整備基本計画（素案）について

資料について事務局より説明

<委員からの意見・提案>

#### ○事業の考え方について

- P6「交流・にぎわい創出」の中で「活動がにじみでる事業展開」とあるが、どのようなものを想定しているのか。
- ホールの中だけでなく、ホワイエやロビーなどの無料で入れる空間や、劇場ではない場所に出向いてダンスや音楽などを行うことも、にぎわい創出のひとつだと捉えてはどうか。  
また、ホールは閉じられた空間の中で活動する場所だが、練習室など日常的に利用される空間を前面に整備することで、活動が外に伝わるようにしていく工夫が必要ではないか。
- (2) 事業内容（P5、6）について、「世界に発信する」という要素が欲しい。
- P8「クリエイティブの視点」という部分に「インバウンドに対応する」という趣旨のことが示されている。どう実現させていくか、運営方法を考えるべき。
- 「新たな国際都市」が論じられる中で、世界に誇るためには超一流を目指さねばならない。規模ではなく、質を重視していくべきだと思う。
- 神戸には様々なイベントがあるが、例えばセイジ・オザワ松本フェスティバルのような世界や全国から人が集客できるイベントがない。本当に良いイベントがあれば年間を通して集客ができる。ソフトがあったうえでのハードではないか。
- P6に書かれている項目については、ボリューム的に各A4サイズ・1ページ程度は示されていないと、こういう事業をするのでこういう施設にしたいという施設計画につながらないのではないか。
- にぎわい創出に関して、地域の人と連携した事業などのソフトの部分は、ハードと分けたほうがわかりやすいかもしれない。
- 例えば、海外のホールのように、ホワイエやロビーを開かれた空間とすることが、実際に可能かどうか。ロビー空間を無料にすると、チケットを持っていない人もロビーに入れるので、ホールに入る各ドアにスタッフが付き、チケットの確認・もぎりをし

なければならない。それには相応の人員配置が必要となり、人件費もかかる。そういった仕様にしまして良いかは、今は決定できない。そういったことを、ハードの詳細計画までに明確にしていく必要がある。

- どのような事業を行うか、その事業にはいくらの費用が必要で、どのように収入面の手立てをするのか、そういうことを事業計画として立てた上で、例えば10年間実行していくことが必要ではないか。

### ○管理運営について

- バスターミナル内に、大ホールと中央区の新たな文化施設として整備するホールを配置するなら、これまでの議論でも言われていることだが、全国大会など規模の大きな催しを行う際に一体的な利用ができるように、運営上のルールに配慮しなければならない。これはとても重要な事項である。
- 基本計画で運営について検討されていても、数年後に開館したときにその運営が実現できなかったホールの事例を知っている。事務局側の覚悟も必要になるが、「一体化した運営を行う」という意思を揺るがせずに計画をすすめていくしかない。
- その例で言うと、神戸国際会議場・国際展示場とワールド記念ホールは隣接しているが、それぞれの運営母体が異なるために一体的に利用することが難しい。新・神戸文化ホールにおいても、中央区の新たな文化施設として整備するホールと大ホールの運営母体が異なると、同様の問題が起こり得るのではないかと強く危惧する。
- そのような問題が起こらないよう、総合的な管理運営体制を検討していく必要がある。
- 以前から指摘されている問題であり、計画の根幹に関わることである。
- 貸館の方法を改めて検討するべきと強く感じている。「神戸のためになる活動に対して減免する」というシステムが必要ではないか。また、ホール側も、そのような団体に対してアドバイスを行ったり、内容をより市民向けにしてもらうなど、しっかり考えを持って取り組まなければならない。
- 市民や若い人が利用できる利用料金設定にしなければならない。

### ○神戸市の文化政策について

- まずは神戸市で、文化の位置付けをどうするのか、何を目指していくかという文化政策を明確にする必要があるのではないか。文化全体のビジョンを考える中で、新・神戸文化ホールの位置づけをしていくべきである。
- 2号館跡のホールを音楽専用にする場合は、松方ホールと連携し、「音楽のまち神戸」として官民一体で連携し、共倒れにならないようにしなければならない。一度ホールができたなら50年は利用されるので、音楽ホールの需要が生まれるように、きちんと文化政策を打ち出さなければならない。

## ○ホールの機能及び客席数について

- 中央区の新たな文化施設として整備するホールについて、現在は 500 席の想定だが、1 階席 400 席～500 席、2 階席 200～300 席の、概ね 700～800 席のホールを考えられないか。演劇公演も鑑賞しやすい。また、演劇公演に適した残響としていただきたい。舞台袖の広さや舞台の奥行き、天井高も重要である。そういうホールがニーズの高いものになるのではないか。
- 若者が神戸に魅力を感じるには、「自分たちもそこで公演してみたい」と思えるホールがあることが非常に重要である。
- 演劇の方々が使えるホールを整備するべきという主張はとても理解できる。ただし、現在の文化ホール（900 席）で演劇公演を見るには、客席と舞台の距離が遠い。本来、演劇公演は 400 席～500 席程度の、役者の表情がわかる距離感の客席で観劇するというのが理想ではないか。
- 2 号館跡地の敷地の形状から音楽専用ホールとなることが有力視されていることは理解している。ただし、これまで市民に質のよい演劇作品を提供し続け、これからも活動を続けていきたいと考えている演劇鑑賞会のことも考慮し、演劇公演ができるホールを整備していただきたい。
- これまで、地方で行われる演劇公演は、東京で制作したものを地方にツアーで巡回するという方法が一般的だった。しかし、これからの時代はその方法が続いていくかどうかは難しいのではないかと思っている。500 席の規模でコンパクトに収め、これまでに行われてきたような公演にも、これから創り出される新しい公演にも対応できるというのが、これからの時代はうまくいくのではないか。そういう採算の取り方は考えられないか。
- 大ホールと中ホールをバスターミナルに整備し、中央区の新たな文化施設として整備するホールを市役所 2 号館跡に整備する方が合理的ではないか。
- 管理運営上は大・中ホールと中央区の新たな文化施設として整備するホールをはっきりと分けるほうが合理的だが、市役所 2 号館跡に多目的ホールとしての中ホールを入れるには、土地の形状から、舞台袖を十分満足する形で取りにくい。それならば、可能性としては機能的に舞台袖が無くても利用が制約されない音楽ホールをクオリティ高く整備することが考えられる。
- もうひとつ、市が持っている室内管弦楽団や合唱団が、きちんと活動できる場所を整えることが求められている。そうすると、きちんとしたブランディングをしていくことも必要になる。それが都市文化政策である。
- 2 つの音楽団体を市外・県外に発信していくためには、かなりクオリティの高いホールが必要となる。音楽ホールとして世界的にも良い機能のホールを整備し、発信していくほうが、MICE の観点から考えても神戸の特徴になるのではないか。
- 大ホールの客席規模について、現在は 1,500 席という最低限の数値を目安として示し

ているが、席数についても議論が必要では。

- ホール客席数の差は興行利用に大きく影響する。たとえ 50 席であっても興行主は席数の多いホールを利用する。2,000 席程度あったほうがよいのではないか。
- 例えば大型オペラでは 1,500 席では必ず赤字になるので、上演できなくなるだろう。
- ポートピアホールは 1,700 席あるが、1,500 席が採算が取れるかどうかのライン。そういった視点で考えるべき。
- 100 席、200 席の差で赤字になるか黒字になるかが決定することも多い。
- 2,000 席あったほうがいいのではないか。
- 貸館を中心にするなら 2,000 席が望ましいが、自主事業を中心に展開していくならば 1,500 席という考え方もある。
- 今の技術ならばかなり客席数の可変が可能だと考えている。中央区の新たな文化施設として整備するホールは、多様な形態の芝居を想定し、最小 400 席、最大 600 席で、演劇鑑賞会も少ないながらも何とか使えるという客席数を検討できないか。

### ○パイプオルガンについて

- 世界的な音楽ホールには必ずパイプオルガンが整備されている。日本のホールにも多数設置されているが、利用が少なくお荷物となっているホールもある。一方で、国内でも毎月オルガンコンサートが満席になるなど、成功しているホールもある。  
ホールのシンボルにもなるものなので、整備を検討すると良いと思う。ホールのステータスを上げるためにも、利用の幅を広げるためにも、費用の問題が解決するならば導入を検討していただきたい。ただし、パイプオルガンを整備した経費を賄うために利用料金が高くなるということがあれば、そこまでして整備する必要はない。

### ○その他

- 民間企業がベースとなる三宮再開発事業の枠組みの中で、併設されるホールに関して、市の意向やこの場の議論がきちんと反映されるのかを不安に思っている。しっかりと意見を言わなければ、「思っていたホールができなかった」となりかねない。
- 今は、P16 の検討課題の中で「整備推進体制」としか書かれていないが、しっかりと作る側に入り議論を行わなければ、そのようなことが起こり得る懸念がある。基本計画において、整備推進体制についても明記すべきではないか。